

奈良女子大学・大学院住環境学専攻・公開講座 2026年12月12日(土)

14:30～16:00

会場: 奈良女子大学ラウンジ

協力: 社会連携センター



平城宮大極殿院復元の虚構と実像

講師: 浅川 滋男 (中村元記念館東洋思想文化研究所・研究員 元奈良国立文化財研究所・遺構調査室長)



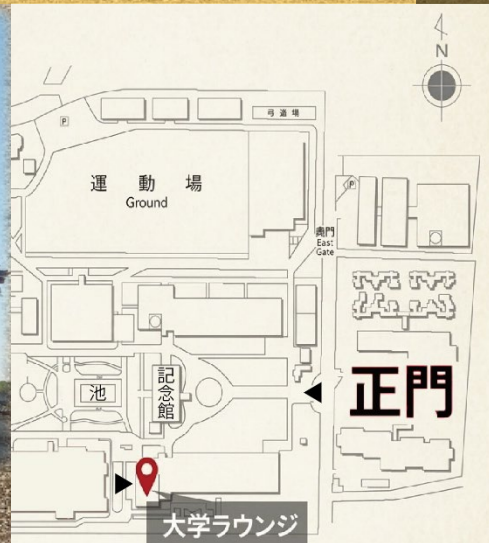
1956年生。京都大学博士

民族建築/建築考古学専攻
同済大学、中国社会科学院
考古研究所等に留学

1987～2001年、奈文研平城宮発掘調査部に在職し、朱雀門・東院庭園・大極殿院の復元事業に係った。平城宮第一次大極殿院の復元は、1993年の1/100模型製作から始動する。最大の問題は、大極殿跡の削平が激しく、柱礎石の痕跡を一つも残さなかったことである。その復元は不確定性の高いものだったが、復元案は「二重入母屋造」案に落ち着く。しかし、二階建の根拠は全くなく、以後の復元事業でさまざまな矛盾が露呈する。2019年の中華人民共和国建国70周年中国建築学会シンポジウムでは「大極殿は平屋でしょ?」と指摘される始末。今年は南門・東楼も竣工したが、全ての復元建物に大きな矛盾を抱えている。いま国民が目当たりにする大極殿院の復元建物群は果たして真実性のあるものなのか。復元事業の前半期を担った研究者として再検証を試みる。



大極殿が二階建となる根拠はあるのか



御来学の際は、公共交通機関を御使用いただき
キャンパスへは正門からお入りください。

「重閣門」は二重門か楼門か